

シチズンシップ教育
ピースフルスクールプログラム
実践報告

2014 年度、2015 年度



一般財団法人クマヒラセキュリティ財団

目次

■ピースフルスクールプログラムとは	3
開発の経緯	
オランダの実績	
日本での導入と実績	
■プログラムの詳細	4-6
ピースフルスクールの目指している世界	
ユニット一覧	
レッスン一覧	
プログラムの特徴	
■実績一覧	7-8
佐賀県武雄市立武内小学校	7
神奈川県箱根町5園（町立箱根幼稚園、温泉幼稚園、仙石原幼児学園、湯本幼児学園、宮城野保育園）	7
お茶の水女子大学附属小学校	8
■実績の詳細	9-16
佐賀県武雄市立武内小学校	9
2014年度に実施したレッスン、2015年度に実施したレッスン 公開授業、これまでの成果	
神奈川県箱根5園	13
2015年度に実施したレッスン、公開授業、これまでの成果	
お茶の水女子大学附属小学校	16
2015年度に実施したレッスン、公開授業、これまでの成果	
■補足資料	18
レッスン詳細	19
掲載資料	22

■ ピースフルスクールプログラムとは

子どもたちの主体性を伸ばし、共生社会を実現する力を磨く幼児・小学生を対象とした教育プログラムです。子どもたちは、多様な人々が共生する社会を実現するために必要なマインドと行動をレッスンと実践を通して学びます。対立を話し合いによって自分達自身で解決することや、建設的な議論をして合意形成すること、自分とは異なる他者を尊重することを実現するために必要な知識を様々なレッスンを通して学びます。

子どもたちは、レッスンでの学びを学校生活の中で起きる他者とのトラブルに活かし、問題解決に取り組みます。このため、プログラム導入により、けんかやいじめのトラブルは減少し、子どもたちは、安心して学校生活を送ることが可能になります。また、お友達と一緒に問題を解決し、よい学級創りに貢献した経験により、子どもたちの自己肯定感や効力感が高まります。子どもたちが、多様化する社会において、主体的に共生社会に参画し貢献する大人に成長することを願って開発されたプログラムです。

● 開発の経緯

ピースフルスクールプログラム（以下、PSP）は、1990年代にいじめや子どもの問題行動の増加を国全体で解決するために、学校やクラスの雰囲気改善することを目的とし、オランダのユトレヒト教育センターが、市の補助金を受けて、ユトレヒト大学のミシャ・デ・ウィンター教授の協力のもとプログラムを開発しました。

● オランダの実績

1999年からプログラムの導入が進んでいるオランダでは、現在、オランダ全土のおよそ800校で実施されています。学校教育としてスタートしたこのプログラムは、学校のみならず家庭や地域社会にも広がりを見せており、ユトレヒト市をはじめとする多くの地域では、子どもたちに関わるスポーツ施設や放課後クラブの指導員や警察官などの大人も協力して地域全体でプログラムの定着に取り組んでいます。プログラムを通して、子どもたちが社会性を持って、自分たちで対立を解決し、主体的に行動できるようになったという調査結果も出ています。

● 日本での導入と実績

日本では、2013年より、オランダのプログラムを参考にしながら、日本版の幼児向けと小学生向けのプログラムを開発し、学校現場への導入を進めています。2014年度より佐賀県の公立小学校、2015年度より国立お茶の水女子大学附属小学校、神奈川県箱根町立の幼稚園・保育園・認定こども園でプログラムを実践しています。子どもたちはレッスンを通して「何がよくて、何がいけないのか」「どうしたらいいのか」を学び、遊びや日常生活でその学びを実践しています。先生や保護者と子どもが共に学び始めています。

■ プログラムの詳細

ピースフルスクールの目指している世界

ピースフルスクールは、子どもたちの自立と共生の力を伸ばすことで、誰もが安心できる安全な環境を多様な人と共につくることを目指しています。

子どもたちは、以下のことができるようになるために、レッスンと日常での実践を繰り返します。

- 対話を通して意思決定すること
- 対立を自分たちで解決すること
- 社会の一員としての責任感を持つこと
- 他者を思いやり、多様性を尊重すること
- 社会の仕組みの中での自分の役割を知ること



■ ユニット一覧

このプログラムには、6つのユニットがあります。

ユニット1	わたしたちのクラス	ほめ言葉を伝える、批判ではなくポジティブなアドバイスをする、嫌な時は「やめてほしい」と伝えるなど、子どもたちの自己肯定感や効力感を高め、安心安全なコミュニティをつくるために必要なスキルを学びます。
ユニット2	感情を認識しよう	うれしい・楽しい・悲しい・怖い・怒りなどの感情を認識し、言葉で相手に伝えること、相手の感情を理解し、受け止めることを学びます。
ユニット3	コミュニケーションスキルをみがこう	自分の意見を伝える、相手の話をきちんと聴くなど、多様な人と協働できるようになるために必要なコミュニケーションスキルを学びます。
ユニット4	対立を自分たちで解決しよう	けんかをした時に冷静になること、話し合いで解決すること、けんかの後に仲直りすることなど、対立やけんかを子どもたち自身で解決するためのスキルを学びます。
ユニット5	貢献しよう	お節介ではなく相手のためになる助けをすること、みんなにとって居心地の良い場所をつくるために自分にできることを実践することなど、自分が所属しているコミュニティに貢献する方法を学びます。
ユニット6	みんなの違いを認め合おう	自分と他の人の相違点を認識し、違っていても友達でいられること、自分とは異なる人を排除するのではなく、違いから学び、お互いを尊重することを学びます。

■ レッスン一覧

このプログラムは幼児～小学6年生までが対象で、学年に応じた内容のレッスンがあります。ここでは、特徴的なレッスンの一覧を記します。

ユニット1 わたしたちのクラス	
ルールと約束の違い	約束をしよう
役割を考え、分担する	ほめ言葉とけなし言葉
批判をアドバイスに変える	嫌な時は「いやだから、やめて」と伝える
協力する	人の話をきちんと聴く
ユニット2 感情を認識しよう	
感情を認め、言葉で表す	感情を伝える
相手の感情を理解し、受け止める	うれしい
かなしい	こわい
感情をコントロールする（怒りと付き合いよう）	
ユニット3 コミュニケーションスキルをみがこう	
自分の意見を持つ、根拠をあわせて伝える	意見の違いを尊重する
言い方の良い例、悪い例	書き方の良い例、悪い例
誤解	偏見
ものの見方（視点）	耳を傾けて、質問する
要約する	合意する
説得する	熟考し酌量する
ユニット4 対立を自分たちで解決しよう	
対立とけんかの違い	対立と暴力
いじめとからかい	3色の帽子（対立の解決方法）
ウィン ウィン解決	対立の原因
対立のエスカレート	オープンに話し合う（話し合いのステッププラン）
ユニット5 貢献しよう	
助ける、干渉する	共同体に対する責任
参加の段階	対立の時に助ける
仲裁	
ユニット6 みんなの違いを認め合おう	
共通点と相違点	判断と偏見
インタビューのテーマを決める	インタビューをする

■ 実績一覧

学校名：佐賀県武雄市立武内小学校		授業：道徳や国語
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童総数：132人 ・ 導入期間：2014年度5月～現在 ・ 対象：小学1年生～6年生 	
ねらい	PSPを通して、同調圧力に負けず自分の意見を伝え、意見が対立した時は話し合いでより良い答えを探す力を身につけること。	
導入背景	武内小学校では反転授業を実施しており、話し合いでの学び合いを大切にしているため、意見が対立することを恐れずに自分の意見を伝える力、相手の話を聴く力などを高めるため、PSPの実施を決めた。	
実施内容	2014年度～9回の授業と教員研修及び授業研究会 ※ 授業は代田昭久校長が実施し、担任の先生が補佐に入る 2015年度～9回の授業と教員研修及び授業研究会 ※ 授業は担任の先生が実施 2016年1月23日 公開授業を実施	

園名：神奈川県箱根町立箱根幼稚園、温泉幼稚園、仙石原幼児学園、湯本幼児学園、宮城野保育園		授業：ピースフルタイム
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児総数：250名 ・ 導入期間：2015年度9月～現在 ・ 対象：3歳児、4歳児、5歳児 	
ねらい	PSPを通して、「豊かな人間性、社会性を育み、信頼される人への根っこづくり」をすること。	
導入背景	箱根町教育支援室が町の全小中学生の児童生徒を対象に実施した「学校生活アンケート」の集計結果で、箱根町の子どもたちの自尊感情、自己有用感が低いことがわかった。これは妬みや嫉妬という感情を生みやすく、いじめにつながりやすいと考え、幼・保・小・中が連携して、子どもたちの豊かな人間性、社会性を育み、自尊感情や自己有用感を高めるため、PSPの実施を決めた。	
実施内容	2015年度8月～ 園長や担当の先生を対象とした導入前研修 2015年度9月～ 各園でレッスンを開始 2015年度2月～ プログラムへの理解を深める研修 2015年度3月～ 大人の学習に重点を置いた研修 ※ 授業は担任の先生が実施	

学校名：東京都お茶の水女子大学附属小学校		授業：プロジェクト型の学習
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・児童総数：700人 ・導入期間：2015年10月～3月 ・対象：小学1年生 	
ねらい	PSPを通して、子どもたちがこれまでに学んできたことや経験してきたことを意味づけ、メタ認知すること、自分たちの力で学級の諸問題を解決し、子どもたちにとっての社会である学級をつくる力を育てていくこと。	
導入背景	お茶の水女子大学附属小学校では、お互いの考えを聴き、しっかりと受け止めたうえで、自分の考えを問い直し、思考し続けることを大切にする「てつがく」科の創設に向けた研究を進めている。自分の意見を持つことや相手の話を聴くことなど、「てつがくする」ために必要な力を1年生のうちに身につけるため、PSPの実施を決めた。	
実施内容	2015年度10月～ 週に2回程度、授業を実施 ※ 授業は担任の先生が実施 2016年2月19日 公開授業を実施	

■ 実績の詳細

[実績の詳細：佐賀県武雄市立武内小学校]

● 佐賀県武雄市立武内小学校

2014年度 実施レッスン	
レッスン名	ねらい
第1回 自分の意見を持つ	何か嫌なことがあった時に、自分で「いやだから、やめて」と言うことが大切であると知る。
第2回 相手の話をきちんと聴こう	相手の話をきちんと聴くとはどういうことを考える。
第3回 いやな時は“やめて！”と言おう	自分たちで問題を解決するためにできることを学ぶ。
第4回 ほめ言葉とけなし言葉	けなし言葉を減らしてほめ言葉を増やすことが大切であると知る。
第5回 友達や家族のいいところを探そう	ポジティブな関係性や環境をつくることを知ることを知る。
第6回 相手のためになる本当の助け方をしよう	お節介と相手のためになる助けの違いを知る。
第7回 怒りの気持ちをコントロールしよう	怒りの気持ちを上手にコントロールする方法を学ぶ。
第8回 対立を話し合いで解決しよう	対立は意見が違うことで起きるもので、悪いものではないことを知る。
第9回 対立の解決のお手伝いをしよう	お友達が対立している時に話し合いで解決するためのお手伝いをすることが大切だと知る。

2015年度 実施レッスン	
レッスン名	ねらい
第1回 相手に伝わるよい伝え方ができるようになる	意見を伝える時に、そう思う根拠や事例を併せて伝えると、相手がより理解しやすくなることを知る。
第2回 批判を建設的なアドバイスに変えよう	批判するのではなく、ポジティブなアドバイスにした方がよいことを知る。
第3回 誤解をなくし、けんかをしないようにしよう	誤解しないためのコミュニケーションの取り方を学ぶ。
第4回 それぞれの“ものの見方”を知ろう	“ものの見方”が異なることが原因で対立しないためのコミュニケーションの取り方を学ぶ。
第5回 対立とけんかの違い	対立は話し合いで解決できるが、けんかに発展させることはいけないことだと知る。
第6回 対立が起こったときは話し合いで解決しよう	3色の帽子をモデルに、対立の解決方法について学ぶ。(赤い帽子：暴力、青い帽子：相手の言いなりになる、黄色い帽子 話し合いで解決)
第7回 ウィン・ウィン解決と妥協	話し合いで解決する時に、お互いが満足する方法(ウィン・ウィン解決)を目指す必要があることを知る。
第8回 対立の原因を考えよう	対立の原因を見つけ、それを解決することで、同じ問題が起こらないことを知る。
第9回 自分たちで考えた解決方法に合意しよう	お互いに合意した時は、その解決方法を実行することが大切であることを知る。

● 公開授業

2015年1月23日に、【官民一体型学校 武雄花まる学園 武雄市立武内小学校～世界一通いたい学校のあるまち武内へ、ようこそ！～公開授業】が開催され、武雄市内だけでなく、全国から武内小学校の教育に関心のある300名の方が参加されました。

PSPの公開授業では、「ウィン・ウィン解決と妥協」についての授業を行い、対立を話し合いで解決する際、お互いに満足する解決方法であるウィン・ウィン解決を目指す必要があること、どうしてもウィン・ウィン解決ができない時は、どちらか一方が満足するウィン・ルーズ解決ではなく、お互いが少しだけ満足する“妥協”の案を考えることも大切であることを学びました。子どもたちからは、「一人だけが満足して、もう一人が残念な気持ちになるよりも、お互いが少しずつ満足できる“妥協”も時には大事だね」や、「“妥協”はどうしたら良いかわからない時のお助けの役割みたいだね」という発言がありました。

■ これまでの成果

[実績の詳細：佐賀県武雄市立武内小学校]

[子どもたちの変化]

PSP の授業で学んだことを、日常生活の中で活かしている姿が見受けられます。

- ・「対立は悪いものではない」という言葉が当たり前のようになってきている。
- ・クラスで対立が起きた時に「今は青い帽子※だよ」と自己内省できるようになった。
- ・対立を話し合いで解決する際、ウィン・ウィン解決のフレームワークを使って、お互いが満足する解決策を導けた。
- ・お節介と人の本当の助けをわかるようになった。

※青い帽子：対立した時に自分の意見を伝えず、相手の言いなりになること

[先生の変化]

PSP の授業と教員研修及び授業研究会を重ねたことで、先生方にも変化がありました。

- ・PSP と道徳は同じことのように思っていたが、違うということがわかった。PSP は実際にできるようになることに重きを置いている。
- ・大人も一緒に学ぶことで、子どもたちに何がいいのかを示していくことができる。
- ・PSP が教えていることは、大人でもできていないこともあるので、自己成長にも役立てられる。
- ・PSP はアクティブ・ラーニングの基礎となる力を養うためにも有益である。



異学年での体験活動の様子



クラス内での体験活動の様子



子どもたちの自主的な
レッスンの様子

■ 実績の詳細

[実績の詳細：箱根町5園]

- 神奈川県箱根町立箱根幼稚園、温泉幼稚園、仙石原幼稚園、湯本幼児学園、宮城野保育園

2015年度 実施レッスン	
レッスン名	ねらい
第1回 わたしのクラスによこそ	お互いの名前を確認し、名前を呼び合うようにする。
第2回 ほめ言葉とけなし言葉	けなし言葉を減らしてほめ言葉を増やすことが大切であると知る。
第3回 ほめ言葉を使おう	けなし言葉を減らしてほめ言葉を増やすことが大切であると知る。
第4回 いやな時は「やめて!」と言おう	何か嫌なことがあった時に、すぐに先生に言いに行くのではなく、まずは自分で「いやだから、やめて」と言うことが大切であると知る。
第5回 仲直りをしよう	自分たちで問題を解決するためにできることを学ぶ。
第6回 交代で行おう	色々なことをする時に、交代で行う良さについて知る。
第7回 一緒に話そう	交互に話す練習、相手の話を聴く練習をする。
第8回 うれしい	うれしいという感情を認識して、どのような時にうれしくなるかを話し合う。
第9回 悲しい	悲しいという感情を認識して、どのような時に悲しくなるか、悲しい時にどうしたらいいのかを話し合う。
第10回 こわがる	怖いという感情を認識して、どのような時に怖くなるか、怖い時にどうしたらいいのかを話し合う。
第11回 怒り	対立やけんかをした時に、怒りの気持ちを爆発させるのではなく、上手にコントロールしていくことを学ぶ。
第12回 わたしの気持ち	自分の感情を認識し、言葉で伝える練習をする。
第13回 助け合おう	助け合うことが良いことであることを知る。
第14回 日直の仕事について考えよう	クラスでの役割を、より一層責任を持って行うこと、クラスに必要な役割について考える。
第15回 相手のためになる助け方	お節介と相手のためになる助けの違いを知る。
第16回 対立した時の助け方	対立の原因を見つけ、それを解決することで、同じ問題が起こらないことを知る。
第17回 わたしの得意なこと	自分と相手の得意なことを知り、お互いに似ているところと違うところがあることを知る。

● これまでの成果

[実績の詳細：箱根町5園]

[子どもたちの変化]

傾向をまとめると、以下の4点が挙げられます。

- ① レッスンで学んだことを日常生活や遊びの中で自然と使っている。(学びを実践する力の向上)
- ② 自分の意見や気持ちを相手に言葉で伝えている。(伝える力の向上)
- ③ お友達や先生の話をお聴きしている。(聴く力の向上)
- ④ 学んだことを振り返っている。(内省力の向上)

まだ自分でアンケートに答えられない子どももいるので、先生からみた子どもたちの変化を挙げます。

- ・レッスンで学んだことを、日常の生活や遊びの中で使っている。
(例)「それは、ちくちく言葉(けなし言葉)だよ」「いやだから、やめて」
- ・自分の意見を話そうとする気持ちが増した。
- ・自分の気持ちを相手に言葉で伝えている。
- ・お友達の話や先生のお話を聴くことができつつある。
- ・前回学んだことを振り返ることができている。
- ・お友達と協働して遊ぶことが苦手だった子が一緒に楽しく遊べるようになってきた。

[先生の変化]

子どもたちの変化と同様に、PSPを通して先生ご自身の変化についてアンケートを取りました。傾向をまとめると、以下の4点が挙げられます。

- ① 自分の指導や子どもとの接し方、声のかけ方を振り返ることができた。(学習力の向上)
- ② PSPの実施という目的があるので、職員間での話し合いから学ぶことができた。(チーム力の向上)
- ③ 子どもを多方面から見ることができ、良いところや今まで知らなかったことに気付くことができた。(気づく力の向上)
- ④ PSPが子どもにとって何か良いものであると思うようになった。(プログラムへの共感)

以下は特徴的だった解答例です。

- 子どもの変化を見ていると、幼い時から PSP を行うことが大切だと感じた。
- 自分の指導や対応のあり方を振り返ることができた。
- 子ども一人ひとりに対しての言葉かけや対応の仕方が変化した。
- 職員間の話し合いから新たに学ぶことができた。
- 多様性について学びが深まり、色々な人を受け入れようとする心持ちになった。
- 子どもを多方面から見ようという姿勢になった。
- 一人ひとりの姿を大切に受け止めるようになった。
- 子どもたちに対して、より共感するようになった。
- 「こんな考えがあるんだ」という新しい発見ができるようになった。
- 子どもの良いところを見つける機会が増えた。
- 自分の言葉で伝えることが苦手な子ども、その子なりの言葉で伝えることの大切さを感じた。

このように、先生の学習力やチーム力が向上すると、子どもたちに良い影響を与えます。ピースフルスクールプログラムは、子どもと関わる大人の質を高めていくことにも寄与しています。



パペットを使った劇で事例について考える様子

■ 実績の詳細

[実績の詳細：お茶の水女子大学附属小学校]

● お茶の水女子大学附属小学校

2015年度 実施レッスン	
レッスン名	ねらい
第1回 わたしたちのクラスのルール	クラスのルールや居心地の良いクラスにするためにみんなの視点にたって考えることを知る。
第2回 ほめ言葉とけなし言葉	けなし言葉やほめ言葉を相手に使うとどのような気持ちになるかを知る。
第3回 嫌な時は「やめて」と言おう	嫌なことをされた時に、「いやだから、やめて」と伝えること、相手に「やめて」と言われたら止めなくてはいけないことを知る。
第4回 対立の原因	意見が違うことは大切なことであり、対立を恐れることは必要ないことを知る。対立の原因を考え、原因を解決するために話し合う練習をする。
第5回 似ているところと違うところ	お互いの似ているところと違うところを話し合い、クラスにも多様性があること、違っているからこそ良いことを知る。
第6回 自分の意見を伝えよう	自分の意見と意見の根拠を述べることで、できるようになる。
第7回 お話をしっかり聴こう	相手の話を聴く時にどのように聴くのが良いのか、「しっかり聴く」とはどういうことなのかを考える。
第8回 対立を話し合いで解決する	誤解しないためのコミュニケーションの取り方を学ぶ。

● 公開授業

2016年2月19日に、【第78回 教育実際指導研究会 学びをひらく— “てつがくすること” を始めた子どもと教師—】が開催されました。

1年生はPSPの授業を実施し、約300名の方が参加されました。

「対立とけんかの違い」という授業を行い、対立は意見が違うことが原因で起きるので悪いことではないこと、その対立をけんかやいじめに発展させず、対立を自分たちで建設的に解決するために何ができるのかについて学びました。

話し合う題材として、子どもたちの身近に起きる対立の事例を扱いました。

子どもたちは、自分の考えをお友達に伝え、お友達の考えを聴くことで、なぜけんかになったか、どうしたら解決できるのかを考えていました。自分の頭で考えることで、対立とけんかの違いについて納得することができます。このレッスンを通して、対立は生じて当たり前であるが、その後に言葉や力で攻撃を加えると、けんかになってしまうことを理解

していました。今までの自分たちに起きた対立とけんかの経験を思い出し、今後どうしたらいいのかについても考えました。

補足資料

■ 佐賀県武雄市立武内小学校で実施したレッスンの内容

2014年度

	レッスン名	ねらい	内容
第1回	自分の意見を持つ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を持つことは良いことだと知る。 お友達と意見が違っていても、問題なくお友達でいられることを知る。 意見を伝える時は、根拠と事例を併せて伝えることが大切だと知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問いに対して、自分の意見を表明する。「賛成」「反対」「わからない」のうちから自分の意見に近いものを選ぶ。 なぜそう思うのか、根拠と事例を伝える練習をする。
第2回	相手の話をきちんと聴こう	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話をきちんと聴くとはどういうことかを考える。 態度だけでなく、きちんと理解するためにコミュニケーションをとる必要があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段、どのように相手の話を聴いているのかを振り返る。 相手の話をもっと理解するために、どのような聴き方が良いか考え、練習する。
第3回	いやな時は“やめて！”と言おう	<ul style="list-style-type: none"> 何か嫌なことがあった時に、すぐに先生に言いに行くのではなく、まずは自分で「いやだから、やめて」と言うことが大切であると知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 嫌なことがあった時に、我慢したり他の人に言うのではなく、自分で「いやだから、やめて」という練習をする。 どんなに楽しくても、相手が「やめて」と言った時はやめなくてはいけないことを理解する。
第4回	ほめ言葉とけなし言葉	<ul style="list-style-type: none"> ほめ言葉とけなし言葉が与える心理的効果を認識し、けなし言葉を減らしてほめ言葉を増やすことが大切であると知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ほめ言葉とけなし言葉を言われた時にどのような気持ちになるかを考える。 ほめ言葉のポジティブな効果について認識する。
第5回	友達や家族のいいところを探そう	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人の良いところを見つけて、言葉で伝えることで、ポジティブな関係性や環境をつくることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> お友達や家族の良いところを探し、言葉で伝える。 紙に書いて、教室に掲示することで、ポジティブな雰囲気をつくる。
第6回	相手のためになる本当の助け方をしよう	<ul style="list-style-type: none"> お節介（干渉）と相手のためになる助けの違いを知る。 相手が喜ぶ助けをすることが大切だということを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような時にお節介になるのかを考え、今までにそのようなことがなかったかを振り返る。 具体例を用いて、相手のためになる助け方を考える。

第7回	怒りの気持ちをコントロールしよう	<ul style="list-style-type: none"> 対立やけんかをした時に、怒りの気持ちを爆発させるのではなく、上手にコントロールしていくことを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「怒りの温度計」を使って、怒りには度合いがあることを知る。 怒りの度合いを下げるために何ができるかを考える。
第8回	対立を話し合いで解決しよう	<ul style="list-style-type: none"> 対立は意見が違うことで起きるもので、悪いものではないことを知る。 対立をけんかやいじめに発展させるのではなく、話し合いで解決することが大切だと知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 対立を話し合いで解決するためのステッププランを使って、実際に対立した時に自分たちで解決できるように練習する。
第9回	対立の解決のお手伝いをしよう	<ul style="list-style-type: none"> お友達が対立している時に、加担するのではなく、話し合いで解決するためのお手伝いをすることが大切だと知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 対立の解決をお手伝いするための「仲介のステッププラン」を使って、対立を解決する練習をする。

2015年度

	レッスン名	ねらい	内容
第1回	相手に伝わるよい伝え方ができるようになるよう	<ul style="list-style-type: none"> 意見を伝える時に、そう思う根拠や事例を併せて伝えると、相手がより理解しやすくなることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を相手に伝える時に、なぜそう思うのか(根拠)と事例を併せて伝える練習をする。
第2回	批判を建設的なアドバイスに変えよう	<ul style="list-style-type: none"> 批判されるとどのような気持ちになるのかを考え、批判ではなくポジティブなアドバイスをした方が良いことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの身近に起きる事例に対して、批判ではなく、ポジティブなアドバイスをするとしたら何と言うかを考える。
第3回	誤解をなくし、けんかをしないようにしよう	<ul style="list-style-type: none"> 誤解が原因でけんかが起きることがあることを知る。 誤解しないためのコミュニケーションの取り方を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> けんかの原因を考え、誤解が原因となる可能性があることを認識し、誤解しないために何ができるのかを考える。
第4回	それぞれの“ものの見方”を知ろう	<ul style="list-style-type: none"> 人にはそれぞれ“ものの見方”があることを知る。 “ものの見方”が異なることが原因で対立しないためのコミュニケーションの取り方を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じことについて話す時に、それぞれの立場やこれまでの経験が異なることから“ものの見方”が違っていることに気付く。 “ものの見方”が原因で対立したためにできることを考える。

第5回	対立とけんかの違い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対立は、お互いの意見が違うことが原因で生じるものであるため、生じて当たり前であることを知る。 ・ 対立は話し合いで解決できるが、けんかに発展させることはいけないことだと知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対立とはどのような状態のことを指すのか、どうなったらけんかになるかを考える。 ・ 対立をけんかに発展させないために何ができるかを考える。
第6回	対立が起こったときは黄色い帽子をかぶろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3色の帽子をモデルに、対立の解決方法について学ぶ。 ・ 赤い帽子は暴力や強い言葉でけんかをする事、青い帽子は自分の意見を言わずに相手の言いなりになること、黄色い帽子は話し合いで解決することを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までのけんかを振り返り、何色の帽子で対応していたかを考える。 ・ 対立した時に黄色い帽子で対応する（話し合いで解決する）ためにできることを考える。
第7回	ウィン・ウィン解決と妥協	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いで解決する時に、お互いが満足する方法（ウィン・ウィン解決）を目指す必要があることを知る。 ・ ウィン・ウィン解決ができない時は、“妥協”をすることも時には必要であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの身近な対立の事例について、ウィン・ウィン解決、ウィン・ルーズ解決、ルーズ・ルーズ解決をした場合、どのような結果になるかを考える。 ・ ウィン・ウィン解決できない事例について、どうしたらお互いが少しずつ満足できるのか、“妥協案”を考える。
第8回	対立の原因を考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対立には必ず原因があることを知る。 ・ 原因を解決することで、同じ問題が起こらないことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの身近な対立の事例について、何が原因で起きたのかを考える。 ・ その原因を解決するために何ができるのかを考える。
第9回	自分たちで考えた解決方法に合意しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対立した時に、自分が完全に満足するウィンの解決でなく、お互いが少しずつ満足する“妥協”の解決に話し合っただけの場合、自分が完全に満足しないからといって合意しないことはいけないことだと知る。 ・ お互いに合意した時は、その解決方法を実行することが大切であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの身近な対立の事例について、話し合っただけの解決方法を考え、完全に自分が満足する解決方法でない場合でも合意しないといけない経験をする。 ・ 話し合っただけの解決方法に合意しない場合、どうなるのかを考える。

● 佐賀県武雄市立武内小学校の掲載資料（学校だより）



GABAI GENKI

がばいゲンキ!

武内小学校 学校だより

平成26年6月20日
武内市立武内小学校
校長 代田 昭久
教頭 竹内 智彦

夏だ、プール開きた、みんなできなかく泳ぐぞー!



前日のくもり空から一転
六月十二日(木)晴天の中
プール開きが行なわれまし
た。がばい元気です!

3年 大吉場かずき
「レビィッ」ではじまったプール開き。ま
ずは走ったり、鬼ごっこをしました。ま
鬼ごっこでは、一回しかつかまりませんで
した。楽しかったです。次にどけいまわりでう
ずまきを作りました。その次は、ほんたい回
りをしました。先頭を走りました。スイミン
グに行っただでターンができるから、100
0メートルを目ひょうにしたいです。

ヤング川柳

5月30日〜6月13日までの間
西日本新聞に掲載された川柳です

- 【一考】足音でほくとど分かるお母さん 松尾 陸 (4年生)
- 【二考】うれしさをやくそくまもってつかまえる 古賀 菜月 (3年生)
- 【三考】聞こえてる音のきれいな笛の音 古川 詩姫 (4年生)
- 【四考】お母さんお手つた小柳太雅ほしいでしょ 小柳 太雅 (4年生)
- 【五考】やぐさくせんがみせぬのこころボカボカた 森元 真海 (3年生)

意見は、みんな違っていい

■校長 代田昭久■
子どもたちは、ついつい好きな子
どうしだけで集まり、反だちとの関
係が固定化してしまいがちです。
ただ、これからの社会で大切な
は、考え方や意見の違う人とも、仲
よくなれること。つまり、多様性の
受容です。みんなと一緒でなくても、
それぞれが違っていいのです。
そこで、本校では今年度よりビー
スフルスクールの授業をスタートし
ました。これは、教育先進国オラン
ダで盛んに行なわれているもので、
先生は、子どもの意見の違いによっ
て対立が起ることを受け止めます。



次回は7月11日(木)の予定

大切なのは、対立が起らないように
することではなく、対立が起ったとき
に、どう乗り越えていけるか、その耐
性やスキルを磨くことです。
校長が教壇に立ち、月1回行ってい
ます。いつでも公開していますので、
気軽に見学にいらっしやう下さい。

【6月のICTスキルタイム】
月に1回、午後の時間に行われ
ている「ICTスキルタイム」。タ
ブレット端末をうまく活用できるよ
うに、その技術向上が狙いです。
4年生では「音声レコーダー」を
使って録音したり、聞いたりする
練習。音読をして自分の声を録音し
再生してみる。すると、思っていた
よりも、自分の声小さかったり、
早口だったり。今まではなかつた
気づきがあります。
ひとり一人のタブレットが、子ど
もたちの可能性を広げます。



お知らせ

●土曜日等開校日

日時：6月21日(土)
○ふれあい道徳：10時25分～

●「新しい学校づくり」 第4回 学校説明会

日時：6月21日(土)
11時20分～12時10分
場所：多目的ホール
※今回は参加者を保護者の皆さんに
限定して質疑応答を中心に行います。

18日(水)児童集会 虫歯を予防しよう

朝の児童集会の時間に、健
康委員会による虫歯予防の
発表がありました。歯みが
きマン、ミュージアンの名
演技にみんな釘づけでした。



黄色いマントは
歯みがきマン!

箱根町教育支援室



つなぐ

平成 27 年 1 1 月 No. 7
箱根町教育支援室

ピースフルスクールプログラム 2 園で公開されました

箱根ハートフルプログラムの一環であるピースフルスクールプログラムを先行して取り組んでいる箱根幼稚園と温泉幼稚園が、今月（9 日、17 日）にプログラムの公開をしてくださいました。どちらの園でも、プログラムをじっくり検討され、園の子どもたちの実態に合わせてプログラムをアレンジして実施されていました。また、公開保育の後の協議会では、参加していただいた小学校の先生方も交えて活発に意見交換がされ、とても有意義な会となりました。



17 日に参加されていたクマヒラセキュリティ財団の福嶋史先生は、箱根町の先生方の熱心な姿勢にとっても驚かれていました。そして、翌日に次のようなメールが届きました。

昨日は公開授業及び協議会のお時間をいただき、誠にありがとうございました。
幼稚園に到着するまでは、「子どもたちの反応はどんな感じだろうか」「先生方は困っていないだろうか」と気がかりでしたが、実際にレッスンの様子を見学させていただき、あたたかく共感力の高い先生が子どもたちに発問し、子どもたちが活発に答えている様子を知れて、本当に安心いたしました。協議会でも、「なぜ幼児期に心を育てる教育が必要なのか」について議論したり、ワークシートの使い方や保護者との連携についてお話できたりして、有意義な時間でした。「5 園でどのように連携していくか」「保護者に対してどのようなアプローチをするか」など、今後も先生方と一緒に考えていきたいと思っています。引き続きよろしく願いいたします。（福嶋先生からのメール）

なぜ、ピースフルスクールプログラム(PSP)が幼児期の子どもに必要なのか？



福嶋先生より、幼児期の子どもたちにとっての PSP のような心を育てるプログラムの必要性について資料をいただいたので、その内容を紹介します。ぜひ、幼児期の子どもたちの姿だけでなく、子どもたちが小学生・中学生・高校生・大人になったことを想像して読んでいただくと幸いです。

○ 非認知能力を伸ばす「5歳までの教育が一生を左右する」(ジュエームズ・ヘックマン)

非認知能力とは、IQに代表される認知能力に対して、主体性や共感力、自制心、コミュニケーション力などといったソーシャルスキルのことを指します。この非認知能力こそ、人が社会に出て成功する上で最も必要な能力であるということが、様々な研究により明らかになっています。そして、この重要な非認知能力を高める教育をするのに最も適した時期が幼児期であることも指摘されています。PSPはこの力を高めるのに有効なプログラムです。

○ 安心安全な環境をつくることができる

子どもたちが主体的に学び、積極的に他者と関わるためには、安心できる環境と心の繋がりが重要です。子どもたちが「こんなことを言ったら、誰かに陰口(悪口)を言われるかもしれない」「失敗したら恥ずかしい」「目立ってしまったら、批判されるかも」といった感情や過度の緊張感を持つような環境では、子どもたちの主体性を育むことはできません。

子どもたちの心を育てることで、園や学校が安心安全な環境となり、勉強や課外活動に集中できるようになります。心の成長と学力は連動しているのです。

○ 体系立っているから、抜け漏れなく学ぶことができる

PSPは6つのユニットからなるプログラムで、主体性や共感力、自制心、コミュニケーション力などの力を抜け漏れなく伸ばすことができます。もちろん、遊びの中で何かが起きた時にその都度子どもたちに大切なことを教えていることもとても大切なことだと思います。しかし、それだけでは、たまたま何も起こらないと、大切なことを伝える機会が生じず、抜け漏れが生じるかもしれません。PSPでは、レッスンで「何がよいことなのか、何が悪いことなのか」「どうしていけばよいのか」を全員で確認し、遊びを含む日常生活で学びを実践しています。

○ 主体的に落ち着いて学べる

けんかやいじめといった問題が起きた時は、問題への対処に意識がいきがちなので、落ち着いてどうしたらよいのかを学ぶことができません。先に記した通り、人間は安心安全な環境でないと主体的に学ぶことができないので、あえてレッスンの時間を設け、落ち着いて学ぶ機会をつくっていくことが大切です。

○ 問題解決力が養われる

けんかなどの問題解決の際に、「そんなことをしてはいけません」「〇〇ちゃんが悪いから、ごめんなさいって謝らないといけないよ」というような大人の発言により介入することで、子どもたち自身で問題を解決する力が養われないことがあります。悪いことをした子がいたとしても、何がよくて、何が悪いのかが理解できていないと、何度も同じような問題を繰り返してしまいます。PSPに取り組むことで、子どもたち自身の問題解決力が養われます。

○ 得意な子だけでなく、みんなができるようになる

PSPは、子どもたちに必要な力を小さなステップで教えています。そして、日常の遊びの中でレッスンでの学びを思い出して使ってみることで、繰り返し学ぶことができます。そうすると、最初は苦手だった子も、少しずつできるようになるのです。得意な子どもにはその能力を伸ばす機会となるように、苦手な子どもは少しずつでもできるようになるために、継続して行うことで、子どもたちが大きくなった時に違いが出てくると思います。

○ いじめなどの問題に対して対処療法ではなく根本的な対策ができる

ひとりの子どもの大人になるまでの間に、幼稚園や保育園、小学校、中学校、高校、専門学校や大学など、様々な教育機関に通います。それぞれの園や学校に在籍している間は、その園や学校の先生が子どもたちの成長を見守り、指導します。園や学校を卒業すると、子どもたちに対する責任は次の進学先に移りますが、子どもはひとり人間として大人になります。在園、在学中に問題が表面化していない場合でも、子どもたちにとって必要な力を身につけるために働きかけることは重要です。小学校や中学校で問題が起きてからでは遅いのです。幼稚園や保育園の子どもだけをイメージしているとわかりにくいのですが、小学生や中学生の子どもを想像してください。

今、多くの小学校や中学校では、いじめ・孤独感・主体性の低下・キレる・無力感・不登校といった問題が起きています。これらの問題は小学校や中学校だけでなく、子どもが生まれてから関わる全ての人の責任であると考えられます。



幼児期から継続的に子どもたちの心を育てることで、小学校以上で起きる問題を防止することができるのです。

小中学校の先生方にも箱根の子どもたちがどんなことを、幼稚園・保育園・幼児学園で学んでいるか知っていただき、学びを積み上げられるように、箱根ハートフルプログラムを構成できたら素晴らしいと思います。

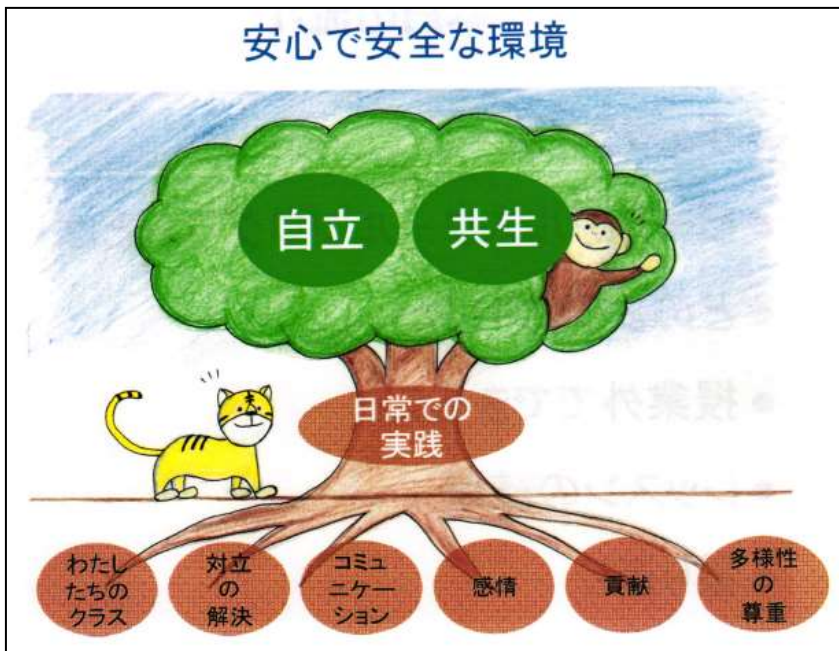
つなぐ

平成 28 年 3 月 No.10
箱根町教育支援室

ピースフルスクールプログラムを紹介します

「箱根ハートフルプログラム」の幼児期のベースになっている「ピースフルスクールプログラム」について、園の先生方は 28 年度の 5 園での本格導入に向けて、今年度、研修と研究を重ねてきました。小中学校の先生方にもピースフルスクールプログラム（PSP）について知っていただき、園で子ども達が学んだことを、さらに小中学校での「箱根ハートフルプログラム」で発展させたり、普段の生活の中で活かしていただいたりできればよいと思います。

ピースフルスクールプログラム（PSP）とは？



PSPでは、「私たちのクラス」「対立の解決」「コミュニケーション」「感情」「貢献」「多様性の尊重」の6つのことを学ぶレッスンがあります。（左図の下）

レッスンは、パペットや絵本などを使って楽しく行われます。子どもたちはレッスンを通して「何が大切なのか」「どうすればよいのか」を学びます。

そして、その学びを日常生活で実践して、普段から出来るようにすることで、「自立」と「共生」の力を養っていくというプログラムです。

代表的なレッスンの紹介

ほめ言葉とけなし言葉

子どもたちは、ほめ言葉とけなし言葉を言われた時に、どのような気持ちになるかを考え、ほめ言葉とけなし言葉がもたらす影響を理解します。お互いにほめ言葉を伝えあうことで、コミュニティをポジティブな雰囲気にすることができます。PSPでは、けなし言葉を言われた時の感情に着目し、自分で自分の発言をコントロールできるように子どもたちを育てます。



嫌だから、やめて

嫌なことをされた時に、直接相手に「嫌だから、やめて！」と伝えること、どんなに楽しいと思っても、相手から「やめて！」と言われたらやめなくてはならないことを知ることで、からかいが深刻なけんかやいじめに発展するのを防ぐことができます。子どもたちは、レッスンで「嫌だから、やめて！」という練習をします。日常生活でも、誰かに嫌なことをされた時に「やめて！」と言う習慣を身につけます。先生は、お友達に嫌なことをされたと言いに来た子どもに対して、「自分で、いやだからやめて、と試してみた？」と子どもたちを促します。



怒りの気持ち



起きなくなります。

PSPでは、感情について複数のレッスンを行いますが、その一つに怒りの気持ちを扱うレッスンがあります。怒りの気持ちがわいてきた時に、もう一度冷静になることで、落ち着いて話ができるようになります。怒りの気持ちを自らコントロールできるようになると、けんかが炎上することや、伝えたいことが伝わらないといったことが

得意なこと

自分とお友達の得意なことを知ることで、お互いに似ているところと違っているところがあることを知ります。似ているところも違っているところも、それぞれ尊いことを知り、お互いを尊重することができるようになります。

「多様性を尊重しようね」と子どもたちに教えても、多様性を尊重できるようにはなりません。子どもたちの生活に根差す形でお互いの一致点と相違点を明らかにしていき、違っているとお友達でいられることを実感することが必要です。



PSPを取り組んで … 第3回PSP研修会（3/11）職員アンケートのまとめ

1. 子どもたちの変化

- ① レッスンで学んだことを日常生活や遊びの中で自然と使っている。 → 学びを実践する
- ② 自分の意見や気持ちを相手に言葉で伝えている。 → 伝える力の向上
- ③ お友達や先生の話聴いている。 → 聴く力の向上
- ④ 学んだことを振り返っている。 → 内省力の向上

2. 先生ご自身の変化

- ① 自分の指導や子どもとの接し方、声のかけ方を振り返ることができた。 → 学習力の向上
- ② PSP実施という目的があるので、職員間での話し合いから学ぶことができた。
→ チーム力の向上
- ③ 子どもを多方面から見ることができ、良いところや今まで知らなかったことに気付くことができた。 → 気付く力の向上
- ④ PSPが子どもにとって何か良いものであると思うようになった。 → プログラムへの共感

【参考】 <http://www.a-kumahira.com/blog/future/> 熊平美香ウェブサイトラーニングジャーニー

お問い合わせ

一般財団法人クマヒラセキュリティ財団
peacefulschool@kumahira.org
03-6809-0763